

K³ 茶論 第1回(2009年5月21日)

学生の学びとコンピュータ — ICT活用と自由で確かな学び —

信州大学 全学教育機構
矢部 正之
yabe@shinshu-u.ac.jp



© 2009 School of General Education, Shinshu University

「K³茶論」とは

K³ = 高等 教育 交流
⇒ 高等教育コンソーシアム信州
での、構成員間の交流の場

+ 導入された講義システムの
試験的利用



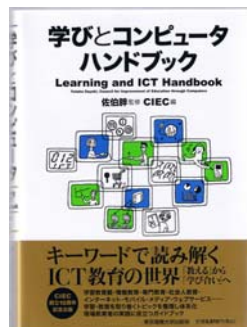
© 2009 School of General Education, Shinshu University

今回のテーマは

「学びとコンピュータ」

ちょっと宣伝! ? ⇒
第3章「コンピュータ
利用教育」の編著担当

他に、第1章は基礎論で、
「学習観・教育観」
(編集は佐伯胖)



© 2009 School of General Education, Shinshu University

多様化する学生と教育の質保証

2007年問題(=大学全入)

2006年問題(新学習指導要領)と相まって、
入学者の多様化が進む

⇔

社会からの要請(期待)の具体化、高度化

↓

大学(教育)の質保証



© 2009 School of General Education, Shinshu University

単位制度の実質化とICT活用

単位制度の運用方法に関する調査より
(西垣・矢部:RIHES-WN-08-001)

調査対象と回答数

調査書配布

国立大学:286学部

公立大学:109学部

私立大学:295学部

回答数

国立大学:149学部

公立大学:59学部

私立大学:153学部



© 2009 School of General Education, Shinshu University

単位制度の実質化とICT活用

単位制度の運用方法に関する調査より
(西垣・矢部:RIHES-WN-08-001)

単位制度の実質化についての調査項目

⇒ 単位制度実質化を目指した施策の導入状況

・履修登録単位数上限設定

・GPA制度

・シラバスへの自習支援情報明示

・履修登録の指導

・成績の追跡

・その他の取組(自由記述)



© 2009 School of General Education, Shinshu University

単位制度の実質化とICT活用

単位制度の実質化に関する取組(自由記述)

⇒ e-Learningに関する回答が多かった

↓
94学部



© 2009 School of General Education, Shinshu University

単位制度の実質化とICT活用

e-Learning
に関する回答
の詳細

単位制度の運用方法
に関する調査より
(西垣・矢部:
RIHES-WN-08-001)

回答内容	学部数
e-learningとのみ記述	46
ネット上の自習教材の利用	18
授業のオンデマンド化	4
オンライン小テスト・予習・復習	7
e-ポートフォリオ	2
オープンコースウェア利用	2
LMS利用	6
メール相談・ネット上での相談受付	2
PC貸出	2
教員へのe-learning活用支援	1
その他	4



© 2009 School of General Education, Shinshu University

教育の質保証とICT活用

2006年度採択現代GP(信州大学)
「自ら学び、学び続ける人材育成の基盤形成」
副題は、

教育の質保証を目指したe-Learningによる
単位制度実質化

⇒ 情報通信技術(ICT)を活用して、効率的、
効果的な教育の改善、質保証



© 2009 School of General Education, Shinshu University

自ら学び学び続ける個性豊かな学生

教育の質保証
単位制度の実質化

“個”に対応した学習環境の提供
e-ALPS

多種多様な学生



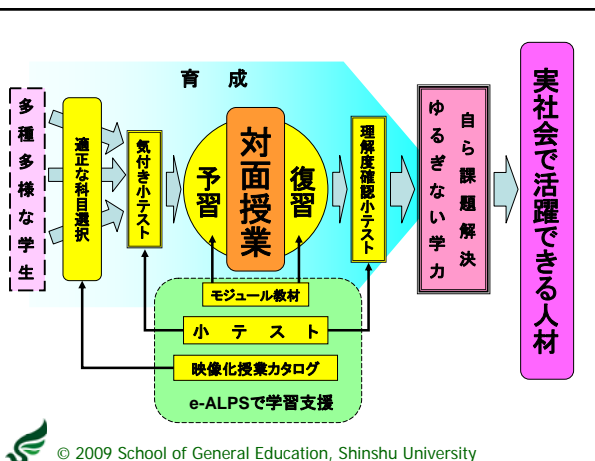
学生が自ら学ぶ仕掛けづくり



© 2009 School of General Education, Shinshu University



© 2009 School of General Education, Shinshu University



具体的な方策

- モジュール化教材
 - 理解度確認小テスト
- 形成的評価とそれに基づく学習



© 2009 School of General Education, Shinshu University

★モジュール化教材

ひとつの小さな学習上の「まとまり」をもって、
自学できるICT活用教材

★理解度確認小テスト

学習者が理解していない事項を、モジュール
単位でどこなのか確認(気づき)できる
学習を終えての理解度を確認できる

適した教材作成 ⇒ モジュール化＋共有



© 2009 School of General Education, Shinshu University

具体的な方策

- モジュール化教材
- 理解度確認小テスト
 形成的評価とそれに基づく学習
- [映像化授業カタログ](#)
 学習目標に基づく、適切な授業選択
<http://vc.shinshu-u.ac.jp/>



© 2009 School of General Education, Shinshu University

具体的な方策

- モジュール化教材
- 理解度確認小テスト
 形成的評価とそれに基づく学習
- 映像化授業カタログ
 学習目標に基づく、適切な授業選択
- 学習目標と進捗状況管理



© 2009 School of General Education, Shinshu University

期待される効果

- 単位制度の実質化 ⇔ 教育の質保証
 ⇒ 自習時間の確保 ← [形成的評価](#)
 ⇒ 学習効果の向上



成績評価の厳しい授業(難授業)と甘い授業(易授業)で、学生の学習実態を比較する。
⇒ 特に形成的評価実施による影響



© 2009 School of General Education, Shinshu University

方法:質問票

- 本 Semester にあなたが受講した授業のうち、
もっとも成績評価が甘い[厳しい]と Semester
中に予測していたものを一つ思い出し、それ
についてお答えください。

(2006~2008に調査)

- 授業について
- 授業時間外の学習について
- 学習成果の評定(学生が認知している)



© 2009 School of General Education, Shinshu University

これまでに分かったこと

- [形成的評価が実施されない](#)授業では[授業時間外学習を行わない](#)学生が多かった。

ただし、学習成果への効果は限定的
学習成果を上げるには、毎週1~2時間自習



© 2009 School of General Education, Shinshu University

これまでに分かったこと

- 形成的評価が実施されない授業では授業時間外学習を行わない学生が多かった。
- 成績評価難易度高い⇒自習時間の多い



© 2009 School of General Education, Shinshu University

これまでに分かったこと

- 形成的評価が実施されない授業では授業時間外学習を行わない学生が多かった。
- 成績評価難易度高い⇒自習時間の多い
- 成績評価の難易度が異なる授業の学習成果について、1年生と高年次生では異なる認識

評価の厳しい授業⇒学習成果低(1年次)

高年次は逆



© 2009 School of General Education, Shinshu University

授業の難易度と学習成果

西垣・矢部(大学教育学会第30回大会(2008年))より

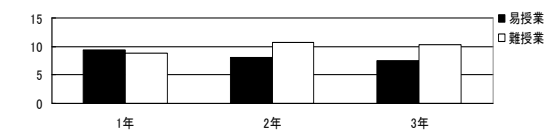


図1. 易授業と難授業の学年ごとの学習成果評定 (max=15)



© 2009 School of General Education, Shinshu University

これまでに分かったこと

- 形成的評価が実施されない授業では授業時間外学習を行わない学生が多かった。
- 成績評価難易度高い⇒自習時間の多い
- 成績評価の難易度が異なる授業の学習成果について、1年生と高年次生では異なる認識
- 形成的評価の効果が限定的
 ? 本当に「形成的」であったか(見直し?)
 ⇔ ICTのより効果的な利用



© 2009 School of General Education, Shinshu University

e-Learning の先にあるもの

キャンパス? 対面授業? ⇔ D Distance

「ITを活用した実践的遠隔教育(e-Learning)」

「ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発」

「教育効果向上のためのICT活用教育の推進」

Fun to learn F Free Flexible Firm

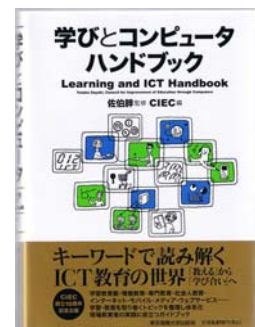


© 2009 School of General Education, Shinshu University

また、恐縮ですが・・・

第3章 「コンピュータ利用教育」

1. コンピュータ利用教育とは
2. 情報通信技術(ICT)と教育
3. コンピュータ利用教育はどこへ?
4. ユビキタス環境におけるコンピュータ利用教育
5. 学びを支えるICT
6. コンピュータ利用教育を支えるもの



© 2009 School of General Education, Shinshu University

ご清聴有難うございます！



© 2009 School of General Education, Shinshu University